

令和 6 年 度

事 業 報 告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

令和6年度事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

	法人本部事業
基本方針	1. 施設利用者及び職員等の安全・衛生管理（コロナ感染症）について、日々高い予防意識をもって対応し安心できる生活環境・利用環境を図った。 2. 無駄なく工夫改善を心掛け経費節約に努め、効率良い利用者支援の実現を図った。 3. 施設利用者の苦情解決及び権利擁護を徹底した。 4. 理事会を年6回程度開催した。 5. 地域との関係の円滑化を図った。
実施事業	1. 小樽四ツ葉学園建設整備にあたり後志振興局との計画案の打ち合わせを実施する。（継続中） 2. 運営規程に準じ第三者評価機関の実施した。（令和6年度小樽四ツ葉学園） 3. 余市豊浜学園放射線防護対策維持経費を申請した。 3,370,072 円 完了
地域における公益的な取組	1. 施設利用者退所後の希望者に対し、預り金等の管理継続を実施した。 2. 施設利用中の生活困窮者に対し、冬期間の灯油等の援助を実施した。 3. 園芸市を開催し、町内会地域住民の方々へ販売提供した。 4. 新光地域貢献の一環として、花苗の提供及び苗植えを実施した。 5. 学園の行事等に学園関連者の方々を招待し交流親睦を図った。 6. 小樽市内の社会福祉関係機関の一員として、生活困窮者へ援助対応した。 7. 冬期間近隣住民の除雪を支援した。 8. 防災時、福祉避難所としての開放及び防災機器の整備推進を図った。

令和 6 年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

障害者支援施設 小樽四ツ葉学園 定員 60 名 現員 53 名	
施設整備	1. エレベーター更新 14,278,000円
	2. 四ツ葉寮ボイラー更新 4,180,000円
	合 計 18,458,000円
支援サービスの目標	1. 感染症対策委員会を定期的を開催し、新型コロナウイルス等の感染症対策の徹底（ワクチン接種、手洗い、手指消毒、事業所内の消毒等）を図った。 2. 利用者個々の健康面を重視し、軽い運動を取り入れると共に、医療機関と連携をし、健康の維持に努めた。 3. 虐待防止委員会を組織し、虐待に繋がるような支援をチェックし、利用者の人権の尊重及び権利擁護の確立を図った。 4. 防火対策及び災害対策の強化を図って行くように努めた。 （避難訓練実施年～2回実施） 5. 利用者の安全を確保するため、ヒヤリハット報告を活用し、事故防止対策の徹底を図った。 6. 個別サービス支援計画の作成においては、利用者の自己決定を尊重し、意思決定の支援に配慮をした。
地域との連携	1. 学園の行事に参加をして頂き、交流を深め、地域の一員として楽しく生活できる環境づくりに努めた。 2. 町内会の行事等に積極的に参加するよう努めた。（歩道花壇整備等） 3. 町内会へ駐車場等の提供を行った。 4. 園芸作品（花苗等）の販売を通じ、地域に努めた。（5月中旬～下旬）

令和 6 年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

生活介護事業所 よつばふれあい 定員 40 名 現員 37 名	
施設整備	1. 工房（作業場）屋上防水工事 2, 6 1 8, 0 0 0 円
支援サービスの目標	1. 感染症対策委員会を定期的開催し、新型コロナウイルス等の感染症対策の徹底（ワクチン接種、手洗い、手指消毒、事業所内の消毒等）を図った。 2. 利用者個人の希望を尊重し、日中活動として、椎茸・園芸・農産・軽作業・手芸等を提供し、利用者個々の適性に合ったサービスを提供に努めた。 3. 虐待防止委員会を組織し、虐待に繋がるような支援をチェックし、利用者の人権の尊重及び権利擁護の確立を図った。 4. 防火対策及び災害対策の強化を図るよう努めた。 （避難訓練実施年～2 回実施） 5. 個別サービス支援計画の作成においては、利用者の自己決定を尊重し、意思決定の支援に配慮をした。 6. 利用者集会を開催し、要望・意見等に速やかに対応するよう努めた。
地域との連携	1. 学園の行事に参加をして頂き、交流を深め、地域の一員として楽しく生活できる環境づくりに努めた。 2. 町内会の行事等に積極的に参加するよう努めた。（歩道花壇整備等） 3. 町内会へ駐車場等の提供を行なった。 4. 園芸作品（花苗等）の販売を通じ、地域に貢献に努めた。（5 月中旬～下旬）

令和 6 年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

生活介護事業所 よつばさくら 定員 40 名 現員 35 名	
施設整備	
支援サービスの目標	1. 感染症対策委員会を定期的開催し、新型コロナウイルス等の感染症対策の徹底（ワクチン接種、手洗い、手指消毒、事業所内の消毒等）を図った。 2. 利用者個人の希望を尊重し、日中活動として、椎茸・園芸・農産・軽作業・手芸等を提供し、利用者個々の適性に応じたサービスに努めた。 3. 虐待防止委員会を組織し、虐待に繋がるような支援をチェックし、利用者の人権の尊重及び権利擁護の確立を図った。 4. 防火対策及び災害対策の強化を図って行くように努めた。 (避難訓練実施年～2 回実施) 5. 個別サービス支援計画の作成においては、利用者の自己決定を尊重し、意思決定の支援に配慮をした。 6. 利用者集会を開催し、要望・意見等に速やかに対応するよう努めた。
地域との連携	1. 学園の行事に参加をして頂き、交流を深め、地域の一員として楽しく生活できる環境づくりに努めた。 2. 町内会の行事等に積極的に参加するよう努めた。(歩道花壇整備等) 3. 町内会へ駐車場等の提供を行なった。 4. 園芸作品（花苗等）の販売を通じ、地域貢献に努めた。(5 月中旬～下旬)

令和 6 年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

共同生活援助事業所よつばクローバー 定員 32 名 現員 24 名	
施設整備	
支援サービスの目標	1. 感染症対策委員会を定期的開催し、新型コロナウイルス等の感染症対策の徹底（ワクチン接種、手洗い、手指消毒、住居内の消毒等）を図った。 2. 地域での生活を継続していくために、夜間対応の充実を図り、より安心して安全に生活ができるように努めた。 3. バックアップ職員と生活支援員及び世話人とのミーティングを定期的実施し、生活の質の向上を図った。 4. 防火対策及び災害対策の強化を図って行くように努めた。 （避難訓練実施年～2 回実施） 5. 個別サービス支援計画の作成においては、利用者の自己決定を尊重し、意思決定の支援に配慮をするよう努めた。 6. 利用者集会を開催し、要望・意見等に速やかに対応するよう努めた。
地域との連携	1. 町内会の行事等（清掃等）に参加をし、地域の中の一員として位置付けられるように努めた。 2. 学園本体の行事等にも参加し、交流を深めた。

令和 6 年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

	相談支援事業所 四ツ葉
整備事業	
相談支援事項	1. 障がい者の福祉の向上並びに自立と社会参加を促進することを目的とし、充実した障害福祉サービス及び社会資源を十分活用できるように情報提供を図り、必要な援助、相談支援を行なった。 2. 訪問相談・電話・ファクス等の方法で相談受付（月～金曜日まで9時から17時）（土曜日は9時から12時）を実施した。 3. 障がい者相談支援事業の実施において、小樽市委託の基本相談並びに他市町村からの依頼によるサービス計画作成及びモニタリングの実施を円滑に実行するよう努めた。 （小樽市より委託料として、4,180,000円） 計画実績数 108件 モニタリング実績数 529件 4. 障害支援区分認定調査受託（小樽市及び他市町村） 認定調査実績数 56件
地域との連携交流	1. 障がい者の地域生活において、総合的な支援を実現するために小樽市障がい児・者支援協議会を活用し、地域での課題解決に向け、関係機関及び他の専門機関と連携調整等を行った。 2. 後志管内及び他市町村の自立支援協議会加入事業所と積極的に交流をし、情報交換を行なった。 3. 小樽市委託の基本相談を通して、市内在住の障がい者を対象とした生活全般の相談、福祉サービス利用に向けた調整等の相談業務を行なった。

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

	障害者支援施設 余市幸住学園 定員50名
施設整備事業	
支援サービスの目標	1. 基本的人権を尊重し、権利擁護の意識に徹した支援に努めた。 2. 個別支援計画を年2回実施し、個々に適した支援の構築に努めた。 3. 事故防止に繋がるようケース会議を実施し、安全対策を講じた支援を図った。 4. 感染症の予防対策と衛生管理の行き届いた支援に努めた。 5. 専門的スキルを身につけ、より良い支援に努めた。 6. ウォーキングなどの運動を取り入れ、体力低下や老化防止のための支援を継続して行った。 7. 音楽療法を取り入れ、心身の安定に役立つ支援に努めた。 8. 利用者集会等での要望や苦情等の速やかな解決に努めた。
地域との連携	1. 行事等を通じて地域との交流を深め、相互理解と協力を得るよう努めた。 2. 地域の活動（清掃、草刈）へ積極的に参加し、連携を深めるよう努めた。 3. 地域関連施設と連携を図り、情報の共有化に努めた。

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

	生活介護事業所 こうずみ とよおか 定員40名
施設整備事業	
支援サービスの目標	1. 基本的人権を尊重し、権利擁護の意識に徹した支援に努めた。 2. 個別支援計画を年2回実施し、個々に適した支援の構築に努めた。 3. 事故防止に繋がるようケース会議を実施し、安全対策を講じた支援を図った。 4. 感染症の予防対策と衛生管理の行き届いた支援に努めた。 5. 専門的スキルを身につけ、より良い支援に努めた。 6. ウォーキングなどの運動を取り入れ、体力低下や老化防止のための支援を継続して行った。 7. 音楽療法を取り入れ、心身の安定に役立つ支援に努めた。 8. 利用者集会等での要望や苦情等の速やかな解決に努めた。
地域との連携	1. 行事等を通じて地域との交流を深め、学園及び地域との相互理解と協力を得られるよう努めた。 2. 地域関連施設と連携を図り、情報の共有化に努めた。

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

	就労継続支援B型事業所 こうずみ 定員20名
施設整備事業	1. 耕運機ローター 440,000円
支援サービスの目標	1. 生産・運営活動の機会を通し、就労に関しての社会的マナーや知識の習得及び能力の向上に努めた。 2. 公衆浴場の運営を通じて、地域交流がより一層深まるように支援を行った。 3. 事故防止に繋がるよう、ヒヤリハット等の報告をもとに予防対策を構築した。 4. 感染症の予防対策と安全衛生管理の徹底に努めた。 5. 基本的人権を尊重し、権利擁護の意識に徹した支援に努めた。
地域との連携	1. 公衆浴場の運営を通して地域との交流を深め、より障害者への理解を深めてもらえるよう務めた。 2. 地域共生として公衆浴場の無料開放（敬老の日）等を実施した。 3. 行事や買い物等の余暇支援を通じて、地域交流の場を設けた。

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

	共同生活援助事業所 こうずみ メープル 定員36名
施設整備事業	
支援サービスの目標	1. 地域で安心してゆとりある生活が出来るように、積極的な支援を行った。 2. 個別支援計画を年2回実施し、個々に適した計画を実施し充実を図った。 3. 事故発生を予防する為、ヒヤリハット等の報告をもとに予防対策を構築した。 4. 感染症の予防対策と衛生管理の行き届いた支援に努めた。 5. 高齢化に伴う、体力・機能の低下を防ぐと共にADLの維持に努めた。 6. 基本的人権を尊重し、権利擁護の意識に徹した支援に努めた。
地域との連携	1. 町内会行事に参加し交流を深め、地域の一員として暮らしていけるように努めた。 2. 地域での日中活動を通じて、相互理解を深めた。

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

	相談支援事業所 余市幸住学園
施設整備事業	
相談支援事業	1. 障害者の福祉の向上ならびに自立と社会参加を促進することを目的とし、充実した障害福祉サービス及び社会資源を十分活用できるよう情報提供をし、相談支援の実施を行った。 2. 訪問相談・電話・FAX等の方法で相談受付（月から金曜日9時から17時まで、土曜日は9時から正午まで）として実施した。 3. 障害支援区分認定調査において、関係機関と調整し実施した。
地域との連携	1. 障害者の地域生活を支援するために、自立支援協議会等を活用し、課題解決に向け関係機関及び他の専門機関と連絡調整等を行った。 2. 自立支援協議会等に積極的に参加し、他の福祉団体との情報交換及び交流を行った。

令和6年度 事業報告

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

余市豊浜学園 定員30名	
施設整備事業	1. 男性居室改修工事（塚本ハウジング） 1,683,000円 2. デルヘルムエアコン新設工事（キングランリニューアル） 1,980,000円 3. 渡り廊下屋根改修工事（塚本ハウジング） 2,325,400円 4. 正面玄関階段改修工事（塚本ハウジング） 394,900円 5. 体育館エアコン新設工事（キングランリニューアル） 6,589,000円 合 計 12,972,300円
支援サービスの目標	1. 利用者の特性に合わせ、日中活動の内容や環境を整えた。 （1） 身体的に運動能力が低下した方や強度行動障害を持つ方など、個々に適した活動内容の実施を目指し、支援を行った。 （2） 支援サービス計画・個人票を基に、本人の日課やニーズを汲み取り活動を提供したが、課題も残ったため次年度も引き続き目標を継続。 2. 感染対策の資機材や衛生用品の点検、補充を行った。施設内外の環境を見直し、リスクへ繋がらないように改修などの対策を行った。 3. 権利擁護研修への参加、施設内での虐待防止に係わる内部研修を実施したが、セルフチェックが未実施だった為、次年度に実施予定。
地域との連携	1. 豊浜海岸のゴミ拾い、墓地の草取り、区会の畑の耕運、朝刊配達、老人世帯の除雪を例年通り実施した。また、豊浜交流祭には多くの地域住民の方が参加された。また、余市町からの委託で豊浜海岸の観光トイレの清掃も実施している。 2. 余市町と合同で原子力防災訓練を実施した。フィルター棟を稼働させ、屋内退避訓練として非常時の対応を確認した。

社会福祉法人 小樽四ツ葉学園

中 央 保 育 所								
入 所 延 べ 定 員	入所児定員 90名							
	歳 児 別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
	歳児別定員	8	17	17	16	14	18	90
	歳児別定員 延べ人数	96	204	204	192	168	216	1,080
	委託延べ 人 数	0	72	147	143	179	200	741
施 設 整 備 事 業	施設整備事業							
	合 計						0円	
運 営 実 績	運営事業							
	一人一人の子どもの人権を尊重し、十分な養護の行き届いた保育を目指して取り組みました。							
	また、職員のスキルアップのため、様々な研修を受けました。							
	1. 特別事業							
	(1) 延長保育事業の実施		利用延べ人数		1,085人			
	(2) 休日保育事業の実施		利用延べ人数		203人			
	2. 関連事業							
	(1) 児童の健康管理							
	嘱託医による年2回の健康診断を実施しました。							
	(2) 事故防止							
散歩の経路、目的地における危険箇所の確認、道路を歩く際の体制・安全確認等について職員間でしっかり情報を共有し、事故防止への意識を高める努力をしました。								
また、誤嚥事故防止と応急処置及びAEDの扱い方について、消防署に講義を依頼し実践的な研修を行いました。								
(3) 児童園内外体験								
四ツ葉学園のバスで百合が原公園・円山動物園・小樽水族館へのバス遠足を実施しました。								
年長児の社会体験は路線バスを利用して、小樽市市民防災研修センターに行き、貴重な体験をしました。								
運動会・発表会・お別れ会は前年度より参加人数の規制を緩和して行いました。								

あおぞら 保 育 園								
入 所 延 べ 定 員	入所児定員 80名							
	歳 児 別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
	歳児別定員	10	16	16	12	13	13	80
	歳児別定員 延べ人数	120	192	192	144	156	156	960
施 設 整 備 事 業	委託延べ 人 数	71	134	179	192	121	132	829
	施設整備事業							
合 計		0円						
運 営 実 績	運営事業							
	一人一人の子どもが健康で安全に過ごせるよう、清潔で衛生的な環境を整えました。							
	また、一人一人の発達過程や個性を尊重し、子どもが自発的・意欲的に遊べる保育を目指しました。							
	1. 特別事業							
	(1) 延長保育事業の実施		利用延べ人数		152人			
	(2) 一時的保育事業の実施		利用延べ人数		0人			
	(3) 零歳児保育事業（産休明け）保育の積極的な受入れ							
	2. 関連事業							
	(1) 児童の健康管理		嘱託医による年2回の健康診断を実施しました。					
	(2) 事故防止		災害避難訓練は年2回の消防署職員立ち合いの訓練を含め、毎月実施しました。					
交通安全については、指導員による交通安全教室を実施しました。								
小樽警察署員立会による不審者対応訓練や誤嚥事故防止、AEDの扱いなどの救命救急の研修を行いました。								
ヒヤリハットについてその内容や状況について職員間で情報を共有し、危険回避に努めました。								
(3) 児童園内外体験		四ツ葉学園のバスで年長児は天狗山登山や円山動物園への遠足、他の年齢児も、色内埠頭公園への遠足を実施しました。						
社会見学として、かま栄工場見学やバス、JRの乗車を行い貴重な体験をしました。また、調理保育に使う食材を南樽市場で買い物を行うことで地域との関わりを持ちました。								
夏祭り、運動会、発表会、お別れ会は、感染予防に配慮しながらコロナ禍前に戻し行いました。								